

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回川越市交通政策審議会
開催日時	令和5年7月21日(金) 午後2時00分 開会 ・ 午後4時00分 閉会
開催場所	ウェスタ川越2階 活動室1
出席者	別添委員名簿のとおり(会長含め18名 ほか参考人3名)
欠席者	西武バス株式会社 秦野 凌 委員 東武バスウエスト株式会社 山科 和仁 委員 イーグルバス株式会社 山岸 実 委員
傍聴者	議事(1) 非公開 議事(2) 3名
事務局職員	都市計画部 笠嶋部長 交通政策課 小島課長、榎本副課長、田畑副主任幹、神谷主査、 澤田主任
会議次第	別紙のとおり
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度第2回川越市交通政策審議会次第 ・ 委員名簿兼出席者名簿 ・ 席次表 ・ 【資料1】 市内循環バス「川越シャトル」の路線見直し(案)に対する意見公募手続の結果について ・ 【資料2】 意見募集(パブリック・コメント)において提出された意見について ・ 【資料3】 令和5年度第1回川越市交通政策審議会における答申書(案)に関する意見に対する市の考え方等について ・ 【資料4】 市内循環バス「川越シャトル」とデマンド型交通「かわまる」の改善について(第二次答申)(案) ・ 【別紙1】 川越シャトル 各路線案における見直しの方向性 ・ 【別紙2】 川越シャトル路線図(令和6年4月1日以降) ・ 【資料5】 デマンド型交通かわまる「運賃割引キャンペーン」結果報告書 ・ 【資料6】 デマンド型交通かわまる「実証実験(区域を乗り継ぐ運行)」結果報告書
会議要旨	<p>【審議結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見公募により提出された意見に伴う「川越シャトルの路線見直し(案)」の変更は、行わないことに決定した。

	<ul style="list-style-type: none">・第二次答申書（案）については、一部表現を削除する以外は原案のとおり決定し、事務局において、第二次答申書の提出等の手続きを行うこととなった。・デマンド型交通かわまるの効果的・効率的な運行に向けた運行内容の検討事項について、本審議会での意見を踏まえ、引き続き交通政策審議会にて議論を進めることとなった。
--	---

議 事 の 経 過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>1 開会</p> <p>事務局から、委員の過半数が出席しており定足数に達しているため、審議会を開催するとのあいさつがあった。</p> <p>また、本審議会は、附属機関のため代理は認められておらず、参考人という形で西武バス(株)の江口氏、東武バスウエスト(株)の中野氏、イーグルバス(株)の高橋氏を参考人として出席することを認めてよろしいか委員に諮ったところ、異議は無かったため、3名の出席が認められた。</p> <p>その後、会議の公開に関する取扱いについて、議事(1)については非公開とし、議事(2)以降の審議は公開の扱いとしたい旨の報告があった。</p>
事務局	<p>2 委嘱書の交付</p> <p>今回の審議会から新委員となる小島洋一委員、今野英子委員の紹介を行い、委嘱書の交付をした。</p>
議長(会長)	<p>3 あいさつ</p> <p>久保田会長からあいさつ</p>
事務局	<p>4 議事</p> <p>【議事1】第二次答申書(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内循環バス「川越シャトル」の路線見直し(案)に対する意見公募手続きの結果について <p>※P1、2会議要旨参照。</p> <p>【議事2】デマンド型交通「かわまる」の運賃割引キャンペーン及び実証実験(区域を乗り継ぐ運行)の結果等について</p>
議長(会長)	<p>会議の冒頭で事務局から話があったとおり、議事2以降は非公開とする理由が無いことから、会議を公開することによろしいか。</p>
一同	<p>異議無し。</p> <p>〈事務局より「運賃割引キャンペーン」の結果報告について、資料5をもとに説明〉</p>
議長(会長)	<p>何か意見、質問等あるか。</p>

議長（会長）	資料 P.7 の検証方法について記載があるが、バス事業者はよくご存じのとおり、交通手段は季節変動が大きい。違う期間で比較しているため、減少したと言ってしまっているのか。本来は前年同月比で比較するのが望ましいが、コロナの関係で複雑になっているため増加や減少というのが言いにくくなっている、ということを理解したうえで議論をしなければならない。
委員	今回の運賃割引キャンペーンは土日・祝日のみの実施であったが、高齢者の利用が多いということで、平日も運賃割引キャンペーンを実施し、需要を検証してみてはどうか。
事務局	平日については利用が多いため、運賃割引キャンペーンの実施は考えていないが、検討したいと思う。
委員	先ほど利用者の比較は季節変動を考慮した方が良い、という意見があったが、令和3年以降のグラフを見るとそこまで変化はない。今回のキャンペーン実施で新たに登録した方が多くいたが利用がされなかった。また、今まで登録していた方で今回初めて利用された方、2回以上使われた方などがおり、背中を後押ししたということを見ると、どういう行動をした方がどれくらいいるのか、個別の分析はできると思う。
委員	資料 P.22 にて「これまで利用したことがない潜在的な需要喚起に向けた検討」とあるが、どこまでいったら理想なのか、というゴールが全然見えない中で、どこまで掘り起こせば良いのか、どれだけ使ってもらえると適正な利用になっているのかが見えない中で、ただ値段を安くして使ってもらえる人に使ってもらいましょうという、行き当たりばったりのように見えてしまう。掘り起こすべき潜在的な理想像はあるのか。
事務局	現在、理想像はないが、やはりデマンド型交通かわまるは、高齢者の利用が8割という中で、より若い方、例えば子育て世代の方や塾利用のお子さんなど、できるだけ若い方に使ってもらえることを目指してやっていきたいと考えている。
委員	かわまるは交通空白地域を埋めるのが本来の目的であって、交通弱者に対する補助のはず。若者は車や自転車で移動し、足がある。その人達にあえて使わなくていいかわまるへ誘導し、かつ、かわまるの予約が取れないということになると本末転倒ではないか。その辺りをどう説明するのか。
事務局	免許を持っていない子育て世代の方々、運転ができないお子さ

	<p>ん達に塾利用などで使ってもらう。または検診・診察の際などに使ってもらうことにより、稼働率を上げていきたいと考えている。</p>
委員	<p>それであれば、キャンペーンを実施するに当たって、ターゲット層を明確にして、そのターゲットの人達が使うことによりインセンティブを与えるような設計にしないと、誰も安くて乗ってくださなければ、本来求めているターゲットを掘り起こせない。そこを意識してもらいたい。</p>
委員	<p>これまでかまわるが出来るよう活動していたが、実際にかまわるが始まってから利用していない。乗降場に行くまでが危ない。高齢者にとっては転んだら命取りとなる。そうなりとやっぱりタクシーとなるが、値段が高い。本当はかまわるを使いたい。近所の方はみな登録はしたが、乗降場に行くまでが危なくて使えないという意見を聞く。暑いと荷物を持って歩いて行くのも大変。あと、車両が大きすぎたと思う。タクシーサイズで良かった。</p>
議長（会長）	<p>考えることが多面的であり、すぐには解決できないことだが、引き続き議論をしていきたい。また、いただいた意見を踏まえ、資料にあるとおり議論をしていきたい。</p>
事務局	<p>〈事務局より「実証実験（区域を乗り継ぐ運行）」の結果報告について、資料6をもとに説明〉</p>
議長（会長）	<p>何か意見、質問等あるか。</p>
委員	<p>資料P.48のアンケート結果では、「乗継移動のニーズ自体が高くないものと思われる」とあるが、資料P.4実施背景にあるアンケート結果では、区域を越えた移動を望む声が多く寄せられたとある。市としては、乗り継ぎ移動のニーズは高いと思っているのか。それとも低いと思っているのか。</p>
事務局	<p>資料P.4にある「区域を越えた移動を望む声」については、市議会においても、区域を越えた運行をしてはどうか、という意見をいただいた。このため市としても、一度実証実験をした方が良かったものと考えたものである。資料P.48のアンケート結果は市としても驚いている。実証実験前は乗り継ぎ移動のニーズが高いのではないかという認識であったが、実証実験後のアンケート結果ではこのようになったものである。</p>

委員	<p>今回のアンケート結果では、実証実験の実施を知らなかったという意見が多かったようだが、市としても様々な周知をしたと思う。今後、同じような周知をして、知名度は上がるのか。</p>
事務局	<p>実証実験を実施するに当たり、各公共施設へのポスターの設置やチラシの配布、自治会長通知等あらゆる手段による周知を行った。しかしながら、アンケート結果は真摯に受け止め、今後の事業周知についてはターゲットを絞り、わかりやすく伝えていきたいと考えている。例えば検診会場に直接事業説明に伺うなど。</p>
委員	<p>乗り継ぎ移動を導入するかは今後の議論になるかと思うが、仮に乗り継ぎを行うとした場合、車両台数を増やす考えはあるのか。例えば鶴ヶ島市はつるワゴンが多く走っているのを見かける。川越市は広いエリアを3台で走っており、なかなか目にする機会もないのではないか。</p>
事務局	<p>本審議会の流れとしては、今回このような資料を事務局にて作成したが、「区域を乗り継ぐ運行をどうするのか」というところについては、事務局案は持っているが、こうしていこうというものを持っているわけではない。</p> <p>本日、実証実験の検証結果をお示したうえで、区域を乗り継ぐ運行が本当に必要なのか、ということについて、委員の皆様への意見を聞きたいと考え、結論は出していない。このため区域を乗り継ぐ運行をやるのかやらないのかはまだ決めていない。</p> <p>このため、委員の皆様への意見を伺いながら、次回以降の審議会で決めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>そもそも市中心部を走らせていないのは、市中心部であれば、市内どこでもある程度交通の便があるため、それを使ってくださいということ。資料P.8の移動例で、新河岸駅から埼玉医大まであえてかわまるを使っているが、新河岸駅から川越駅まで行き、そこからバスに乗るという記載があるべき。その中で、資料P.55の区域設定の過去の議論にもあるとおり、交通空白地域の最寄りの鉄道駅やバス停までかわまるで移動し、そこから既存の公共交通を使ってもらう。これが本来あるべきものだと思う。</p> <p>交通空白地域こそ安くていつでもどこでも安全に送ってもらえるのであれば、よっぽどそっちの方が市中心部よりも便利になってしまう。やはり、かわまるのあるべき論、理想像をしっかり設定してもらい、それに向けた運用をしていかないと、どんどん便利にしてくれとか、誰でも使いやすくという話が先行してしまうと、この施策は何だったのかという感じがしてしまう。タクシーや川越シャトルの客も奪いかねない。全体のバランスを考え、</p>

	<p>どんどん便利なものを求めていってしまうとおかしくなってしまう。</p>
委員	<p>予約は 30 分前までできたかと思うが、ピコアで待っていた運転手と「ピコアで乗りたい人がいるのに 30 分待たなくてはいけないのは不便だ」という話をしたことがあるが、現在はどのような運用になっているのか。</p>
事務局	<p>30 分前までという運用は変えていない。ただし、市議会においても同じような質問をいただいたため、運行事業者と予約受付時間の運用について協議をしているところである。</p>
委員	<p>30 分前までという設定が無くなれば、病院帰りなど空いていれば使い勝手がよくなる。</p>
事務局	<p>ピコアでデマンド車両が待機している理由としては、地区 3 のおおよそ中間地点に位置しているためである。また、待機場所は公共施設にするよう運行事業者にお願いしており、地区 3 での待機場所として多い所は、ピコア、安比奈親水公園グラウンド、霞ヶ関市民センターなどで、予約が入っていない時は待機していただいております。待機場所から予約乗降場までの移動時間を考慮し、運行事業者と調整をしていきたい。</p>
議長（会長）	<p>本日いただいた意見を踏まえ、次回以降の審議会で議論を深めていくことでよろしいか。</p>
一同	<p>異議無し。</p>
議長（会長）	<p>それでは、事務局は次回に向けて準備をお願いしたい。 次に、(3)その他について、委員の皆様より何かあるか。</p> <p>(なし)</p>
議長（会長）	<p>事務局からは何かあるか。</p>
事務局	<p>次回審議会は 10 月 24 日（火）午前中を予定している。詳細が決定次第ご連絡させていただく。</p>
事務局	<p>5 閉会</p>